

### 高岡銅器 Takaoka Bronze Casting

高岡銅器は、江戸時代中期に高岡で始まった。高岡は、山形県に位置し、日本海に面している。高岡銅器は、高岡の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。高岡銅器は、高岡の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

高岡銅器は、高岡の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。高岡銅器は、高岡の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

高岡銅器は、高岡の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。高岡銅器は、高岡の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

### 輪島塗 Wajima-nuri (Lacquerware)

輪島塗は、江戸時代中期に輪島で始まった。輪島は、石川県に位置し、日本海に面している。輪島塗は、輪島の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。輪島塗は、輪島の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

輪島塗は、輪島の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。輪島塗は、輪島の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

輪島塗は、輪島の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。輪島塗は、輪島の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

### 九谷焼 Kutani-yaki (Ware)

九谷焼は、江戸時代中期に九谷で始まった。九谷は、石川県に位置し、日本海に面している。九谷焼は、九谷の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。九谷焼は、九谷の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

九谷焼は、九谷の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。九谷焼は、九谷の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。

九谷焼は、九谷の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。九谷焼は、九谷の歴史と文化を象徴するものとして、国内外に知られている。





### 伊勢形紙 Ise katagami

伊勢形紙とは  
慶長時代(1603年)に伊勢市で考案された紙で、江戸時代を通じて、幕府や大名の御用紙として、また、和紙の代表として、海外にも輸出されました。和紙の代表として、海外にも輸出されました。和紙の代表として、海外にも輸出されました。

The katagami is a traditional dyed paper developed in Suzuka City, that is used for dyeing various patterns and motifs on fabric such as kimono, to cut out designs and motifs on the paper, different of carving knives are used, depending on the carving methods, in addition to the general and patterns that can only be expressed by hand, the military and gurgled patterns have subtle variations. In recent years, in addition to dying kimono, the designs and techniques of Ise Katagami have been used in the creation of arts and crafts, interior goods and other products.

The patterns dyed on this katagami are Kiriko carved Sarabandan and Urakomon. It is made by dying with the dye made by hand and by use. The white color was formed by natural because the white color was not dyed. It had the meaning of "saratani". In addition, the Urakomon represents the shape of a fish. Some use katagami are born one after another. It is a pattern that expresses prohibition.

### 大阪浪華錫器 Osaka naniwa pewterware

歴史の悠久は、現在約100年前江戸末期の近代都市で隆々たる繁華を誇りました。江戸〜明治20年代、当時の隆華堂、浪華堂によって中絶されました。文藝としても、正装にも半信の器が提供されています。現在も隆華堂に継承され、江戸の器、昔ながらの器が作られています。

This history of pewter goes back to ancient times. Pewter bottles were found in Prehistoric Eglington (3000 B.C.) ancient cities. Thirteen centuries ago, the Japanese arrived to the Sul and Tang Dynasties brought back pewter wares to Japan, some of which are in Brussels, the country's famous treasure house. Today pewter products are still carefully handcrafted in traditional ways of casting and wheel grinding one by one.





**尾張七宝 Owari Chawan**  
**七宝焼の製造工程** Manufacturing Process of Chawanware (Ceramic Bowl)

**工程 1**  
 土を練り、成形する。成形後は乾燥させる。乾燥させた土は、窯で焼く。焼くことで、土は硬くなり、色も変わる。

**工程 2**  
 焼いた土に、色料を施す。色料は、天然の鉱物や植物の色素から作られる。色料を施すことで、七宝焼の美しい色合いが生まれる。

**工程 3**  
 色料を施した土は、再び窯で焼く。この工程で、色料が土に定着し、最終的な色合いが完成する。

**工程 4**  
 焼いた土を、釉薬を施す。釉薬は、土と溶け合い、焼くことで、光沢のある釉薬層が形成される。

**工程 5**  
 釉薬を施した土は、再び窯で焼く。この工程で、釉薬が土に定着し、最終的な光沢が完成する。

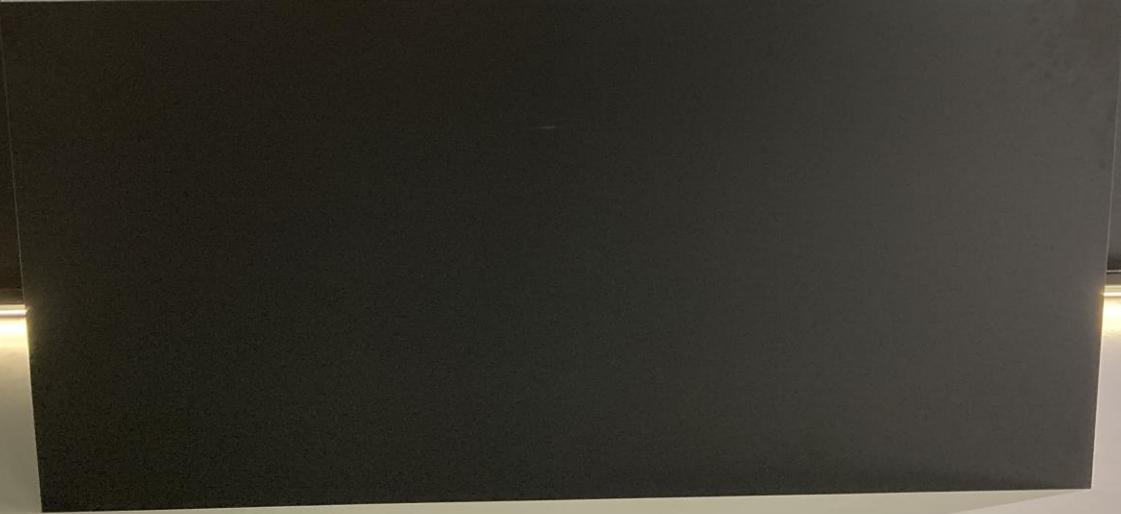
**工程 6**  
 焼いた土を、仕上げ処理する。仕上げ処理は、土の表面を滑らかにし、最終的な仕上がりになる。

**七宝焼の歴史** History of Owari Chawan

**起源**  
 七宝焼の起源は、室町時代（15世紀後半）に遡ります。尾張藩の藩政による産業振興政策の一環として、七宝焼の生産が奨励されました。

**発展**  
 江戸時代（17世紀後半）には、七宝焼の生産はさらに発展しました。尾張藩の藩政による産業振興政策の一環として、七宝焼の生産が奨励されました。

**現代**  
 現代では、七宝焼は伝統工芸として保護されています。尾張藩の藩政による産業振興政策の一環として、七宝焼の生産が奨励されました。



# 伝産法50年のあゆみ



「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」公布、施行（5月26日）

伝統的工芸品産業振興センター  
設立。関係省庁が協力をし、  
振興活動の推進を図る。



伝統的工芸品産業  
振興センター設立



伝統的工芸品産業  
振興センター設立



東京・大阪・福岡に  
産業振興センター  
開設。関係省庁が  
協力をし、振興  
活動の推進を図る。



伝統的工芸品産業  
振興センター設立

伝統的工芸品産業  
振興センター設立

伝統的工芸品産業  
振興センター設立



伝統的工芸品産業  
振興センター設立



伝統的工芸品産業  
振興センター設立



伝統的工芸品産業  
振興センター設立

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」制定50周年



手  
こちらのモ  
さら